

13 層状軟弱地盤の圧密沈下の近似計算法 (第2報)

徳島大学工学部土木教室 梶 原 光 久

(要 旨)

・各層で圧密の諸係数が異なる軟弱地盤の圧密沈下の算定には単一層の近似計算法を適用することができない。しかし、二層矩形荷重面の場合片面透水の厳密解は固相水圧曲線が筆者の提案する“置換層”においては、拋物線を形成することを示している。この原理に基づいた2、3の計算結果は平均値法によるものより遙かに誤差が小さい。(昭和28年度 土木学会中四支部講演会、土木学会誌39巻4号 P.40)

そこで、筆者はさらにこの原理を両面透水の場合に適用し、“仮想不透水層”の概念を導入して圧密沈下を計算する方法を述べ3つの計算例によって平均値法との比較検討を行う。